

〔 6 〕 地球温暖化対策

6-1 概要

近年、地球温暖化はひっ迫した問題として顕在化し、世界共通の持続可能な開発目標である SDGs、また、パリ協定に基づく温室効果ガス（主に CO₂）の削減など、地球温暖化対策に関わる施策の推進は地球規模で動いています。

また、政府は 2020 年 10 月に、2050 年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、カーボンニュートラルを目指すことを宣言しました。

地球温暖化は単に平均気温の上昇ということではなく、それを要因としてさまざまなことに影響が及ぶと想定されています。

そのため、今を生きる私たちは、地球温暖化問題と向き合い、それを防止する取り組みを理解し、実践していかなければなりません。

町では地球温暖化対策のため、ホームページや広報紙、イベントなどを通し、普及啓発活動を行うとともに、地球温暖化対策実行計画のもと、行政の事務事業等における CO₂ 削減の取り組みを進めています。

6-2 啓発活動

（1）エコライフにチャレンジ

町立小中学校の児童生徒を対象に、夏休みはごみの減量化等に関わる宿題、冬休みはマイエコ 10 宣言を配布し、地球温暖化対策の啓発を行いました。

なお、マイエコ 10 宣言を提出いただいた学校には、結果をフィードバックし、地球温暖化防止の行動に繋がるよう努めました。

配布枚数	夏休み	計 2,074 枚（小学校 3 校及び中学校 2 校）
（予備含む）	冬休み	計 2,174 枚（小学校 3 校及び中学校 2 校）

（2）町内の保育所、小学校、中学校を対象とした事業

環境に関する出前授業を、希望があった保育所、小学校、中学校で実施し、未来を担う子ども達の環境保全意識の向上に繋がるよう努めました。

また、小学校 4 年生から 6 年生を対象に、環境について学びながら、環境に優しい工作をする「体験型未来づくり教室」を開催しました。

環境出前授業	6 月 17 日	二宮町立二宮小学校
	7 月 17 日	二宮町立二宮小学校
	10 月 11 日	みちる愛児園
	12 月 19 日	にのみや保育園

体験型未来づくり教室 8 月 4 日

6-3 グリーン購入

グリーン購入とは、製品やサービスを購入する際に、環境への負荷ができるだけ少ないものを選んで購入することです。グリーン購入は、購入者自身の活動を環境にやさしいものにするだけでなく、供給側の企業に環境負荷の少ない製品の開発を促すことで、経済活動全体を変えていくことが期待されています。

平成 13 年 4 月に「国等による環境物品等の調達の推進に関する法律（グリーン購入法）」が施行されたことを受け、町では平成 15 年 8 月に「二宮町グリーン購入基本方針」を策定して以来、環境に配慮した物品を購入するよう努めています。

6-4 公共施設等の新エネルギー活用状況

エネルギー 区分	施設名称	所在地	設置 年度	設置 台数	発電容量 合計	利用方法等
次世代自動車	ハイブリッド 自動車	—	令和 3 年	1	—	公用車として 利用
次世代自動車	ハイブリッド 自動車		令和 6 年	1	—	公用車として 利用（議長車）
次世代自動車	プラグイン ハイブリッド自動車	—	令和 2 年	1	—	公用車として 利用
次世代自動車	バッテリー式 電気自動車	—	平成 30 年	2	—	公用車として 利用
次世代自動車	クリーンディーゼル車	—	平成 24 年	1	—	公用車として 利用（消防車）
次世代自動車	クリーンディーゼル車	—	平成 29 年	1	—	公用車として 利用（消防車）
次世代自動車	クリーンディーゼル車	—	令和 4 年	1	—	公用車として 利用（消防車）
太陽光発電	二宮町 ふたみ記念館	山西 1953-1	平成 23 年	1	4.80kw	施設の稼働電力 として利用、余 剰電力は売電
太陽光発電	二宮町 ウッドチップセンター	緑が丘 1-12-2	平成 27 年	1	5.50kw	施設の稼働電力 として利用
太陽光発電	二宮町立 二宮小学校	二宮 872-1	平成 27 年	1	11.52kw	施設の稼働電力 として利用
太陽光発電	旧 I T ふれあい館	二宮 823-8	平成 15 年	1	5.01kw	施設の稼働電力 として利用、余 剰電力は売電